

# (仮称)さっぽろ連携中枢都市圏に対する市民意見募集の結果と市の考え方について

平成31年2月

江別市企画政策部企画課企画係

## ■意見の募集結果

募集期間	平成30年12月12日～平成31年1月15日
提出者数	4人
提出件数	4件

## ■意見に対する考え方の区分

区分	意見の反映状況
A	意見の趣旨が、市と同様と考えられるもの
B	今後、検討していくもの
C	実現は難しいが、今後の参考等とするもの

### ※特記事項

- ・パブリックコメントの内容については、提出者の意見をできるだけ正確に表すため、人物を特定できるような固有名詞やご意見以外の記述を除き、可能な限り原文のとおり掲載しております。

No	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	区分
1	<p>江別市は札幌近郊の市で距離的に最も札幌に近い市です。したがって、一市民としてふと思うのは、江別市には人口規模に合った病院が少ないということです。道内で大半の医学部をもつ大学は札幌に集中していますので、地域の医療技術向上のために市としても大学から各病院に対して、働きかけをおこなってほしいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携中枢都市圏では、地域医療の分野における連携も想定されており、当該する事業として、救急医療の適正利用の取組に係る検討などが予定されております。ご意見にあります地域の医療技術向上については、この圏域としてどのようなことができるのか、今後、札幌市とも検討していきたいと考えております。</li> </ul>	C
2	<p>本国での人口減少傾向に改善が見込めないなか、一時的な人口の増減は長期的に見ると、さほど意味を持たないと感じています。このような社会的背景では、単独または隣接する自治体のみで課題を解決するのではなく、大都市を含め様々な特徴を持つ自治体の持てる資源を結集させることが重要であり、同構想は時代に即した良い戦略と思います。江別市として、この仕組みをどのように活かしていけるか、興味のあるところです。</p> <p>例として、想定される事業の中から以下2点について、意見を書かせて頂きます。まず「高等教育機関の集積を活かした人材の育成」については、北海道内の大学に在学する学生数のうち、圏域の大学に在籍する学生数は8割になることから、道内では唯一無二の規模の若い人材の育成拠点になり得るでしょう。圏域の大学生を対象としたビジネスプランコンテストやイベントを江別市で開催できれば、若者の集まるまちとしての江別市の価値を高めることにもつなげられるはずです。</p> <p>また「災害対策」では、本年の胆振東部地震の支援に関わる中で、支援物資の運用や廃棄物処理をスムーズに行うには広域連携の枠組みが必要と痛感しました。農家の倉庫が倒壊し、積雪の前に重機を保管する場所が必要となったり、大量の支援物資を保管する場所が無く、施設利用の再開が進まなかったりするなど、場所に関する課題は深刻であり、広域的に保管場所を確保することが出来ればと思ったところです。同構想の財政措置も活用しながら、江別市の長所を活かし、圏域の課題を克服していける事業が行われることを期待しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的に、人口減少や少子高齢化などの社会経済情勢の急速な変化が進むなか、圏域内の市町村が持つ魅力を掛け合わせた取組を行うことにより、圏域全体にヒト、モノ、カネ、コトを呼び込み、それぞれの市町村の持つ強みを活かして、よりきめ細やかな住民サービスの提供や行政コストの削減などを行う必要があるものと考えています。</li> <li>・ご意見の中にありました「高等教育機関の集積を活かした人材の育成」については、専門分野の知識を有する学生チームによるビジネスプランの作成等の事業を予定しており、事業を実施する際の活動場所として当市を積極的に活用して頂けるよう札幌市に働きかけていきたいと考えております。</li> <li>・また、「災害対策」については、災害や防災に関する相互理解や情報共有を密に行い消防活動や上下水道、廃棄物処理について相互応援等を行っていくなかで、圏域の課題解決に向けた協議・検討をしていきたいと考えております。</li> </ul>	B

<p>3</p>	<p>大麻駅を利用し、札幌に通勤している者です。はじめてこの街を見た時にヨーロッパの大学都市になり得るアカデミックな要素があると思いました。野幌森林公園を背景に複数の博物館や図書館、大学があり、少子高齢化が問題のこの国でありながら若い人で溢れています。ローレンス・ウィリアムズは、「人間の脳にとっては自然の中で過ごした方がいい考えがうまれる」と言っています。ここは創造的なよいライフスタイルが実現可能な地域だと思います。しかし、市の計画は江別方面ばかりであり、若い力は札幌に流れています。今札幌で活動していること(仕事・アルバイト、インターシップ、学習室・スタジオ、外国語などの習い事、飲食、スポーツ・文化、土産を含む買い物、友人知人が来た時の宿泊、国際交流、ボランティアなど)が、仮に江別で出来たらそちらに移るかどうかが学生に聞くと、「移らない、大麻なら良い」という返事が返ってきます。理由は江別に行くには札幌と同じ交通費や移動時間がかかるが、時間や労力の割にまとまったことが出来ないからです。もし市内全域に人の流れを作るなら交通システムの改善が必要です。</p> <p>さっぽろ提携中枢都市圏にある市の中で江別市は札幌市の次に大学数が多く、その全てが森林公園⇄野幌間にあります。JR 乗降客も大麻が一番多く、自然エネルギー循環型社会の規模も札幌と江別が同じ規模なのは循環の専門家がいて、環境意識も高いからだと思います。大麻は他の地域や国からの一時居住者や来訪者も多く、多文化共生や多様性を考える機会にも恵まれています。来訪者は自身の地域に帰って、江別の文化を広めることに貢献してくれます。今札幌で行われている活動が大麻で出来ればよいと思います。</p> <p>施設も利用者が利用しやすい場所や時間帯で利用出来なければ、利用率もあがりません。徒歩や自転車での移動が可能な範囲の既存の施設や空地・空家を活用し、用途地区に捕らわれない混在型で、札幌から広がるポイントを繋ぐ仕組みが出来れば、夜中の札幌からの若い人で満員の電車は解消されると思います。そして、市が環境に良いグローバルな大学都市として認められれば、人もお金も入ってきて持続可能になります。市境は面白いです。札幌と公共交通機関十数分で繋がる自然豊かなまちの人的資源を含めた地域資源を十分に洗い出し、活用することを提案します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連携中枢都市圏においては、様々な特徴を有している市町村が集まることとなり、それらの特徴を掛け合わせた様々な取組を行うことで、単独の市町村による取組以上の強みが得られると考えております。</li> <li>・ ご意見にありますように、大麻地区は札幌市と隣接しているほか、3つの大学や研究機関が立地し、若い人材が多いという特色があります。こうした大麻地区の強みのほか、江別市全体の様々な地域資源を活かし、江別市にも人が流れる事業について、札幌市と協議していきたいと考えております。</li> </ul>	<p>B</p>
----------	---	--	----------

<p>4</p>	<p>大賛成です。積極的に参加すべきです。</p> <p>江別市としては札幌市の隣町という絶対的に有利な立地環境を生かすことが両市の発展にとって極めて大切な課題です。</p> <p>今迄の江別市の発展にとって行って来た政策は大都市である札幌と手を取りあって発展する方向ではなく、江別市単独の発展を目指して来たと思います。例えば札幌市と結ぶ道路なども札幌市の周辺の都市と異なり、江別市の単独でのまちづくりに重点を置いた政策をとって来たように思われます。本来は札幌市と手を携えてお互いが連携し、共に発展するべきであったと考えていました。今後はともに協力し、住みよいまちづくりを行う様願っています。将来は1000万都市を目指すべきです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的に、人口減少や少子高齢化などの社会経済情勢の急速な変化が進むなか、圏域内の市町村が持つ魅力を掛け合わせた取組を行うことにより、圏域全体にヒト、モノ、カネ、コトを呼び込み、それぞれの市町村の持つ強みを活かして、よりきめ細やかな住民サービスの提供や行政コストの削減を行うことが、当圏域を形成する主な目的です。</li> <li>・札幌市や近隣自治体と連携することで、観光や企業誘致、移住促進などを始めとする様々な分野において大きな相乗効果が生じるものと期待しております。</li> </ul>	<p>A</p>
----------	---	---	----------